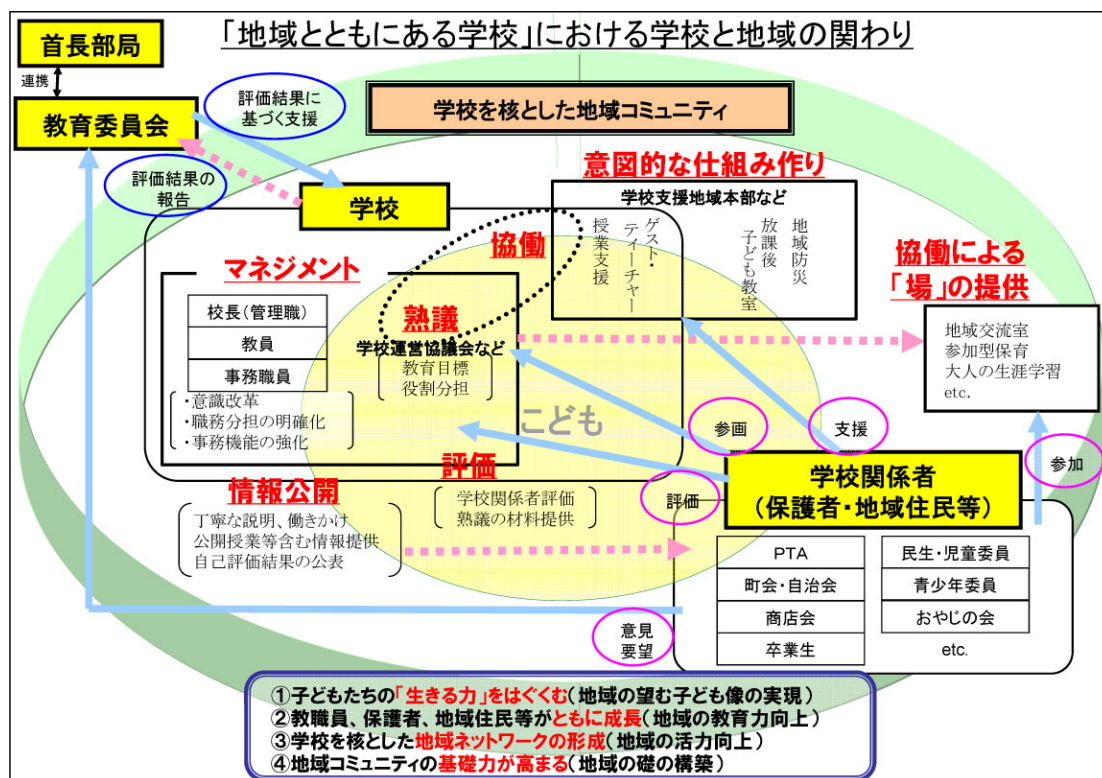


第2章 地域とともにある学校づくりを進める学校運営

1. 地域とともにある学校づくりとは

最初に、地域とともにある学校づくりとは何かについて、確認する。「はじめに」、ならびに「第1章」で紹介したように、学校や地域の課題や特色に応じて、学校と地域との連携は多様なものが想定されるが、本書では、協力者会議の提言にあるように、「学校と地域の関係は、子どもを中心に据えて、家庭とあわせて三位一体の体制を構築し、子どもの成長とともに、教職員や保護者、地域住民等がともに学びあいながら人間的な成長を遂げていくという姿」と理解する（提言 p.2）。つまり、学校、家庭、地域がともに学び、ともに成長できるような連携を指している。

協力者会議提言における学校と地域との関わりイメージ



2. 地域とともにある学校づくり事例

次に、地域とともにある学校づくりをイメージしやすい事例をいくつか紹介する。横浜市の東山田中学校区では、校内に設けられたコミュニティハウスを拠点に、住民が気軽に学校に立ち寄り、学校と連携した活動を行えるようにしている。宇都宮市では、地域協議会（宇都宮版コミュニティ・スクール）が、学校と地域をつなぐ様々な取組を行っており、住民の目にとまりやすい具体的な成果を出している。三鷹市では、小・中学校が統廃合することなく連携することで学園という単位で連携を図り、学園のコミュニティ・スクールが地域と連携した学校づくりと、コミュニティ・スクールという場を活用した地域づくりを進めつつある。

◇ 神奈川県横浜市 市立東山田中学校（同中学校区）

学校と地域をつなぐコミュニティの拠点が、キャリア教育や地域住民の学校活動への参加をコーディネートしている。

- コミュニティハウスという地域住民が気軽に立ち寄れる場が学校内に設置され、そこが拠点となって、地域と学校をつなぐ様々な取組を展開している。
- 新興住宅地であるため、住民の地域への帰属意識や学校への愛着は必ずしも高いわけではなかったが、コミュニティハウスの企画するイベントや活動への参画が入口となって、学校や地域に対して関心を高める住民が増えつつある。
- 例えば、キャリア教育の一環で、中学生向けに採用面接の練習として、企業勤務経験者などの地域住民が面接者となり、親身にアドバイスしている。また、中学校区のシンボルマークを広く住民から公募して決定し、地域への愛着を高めるよう努めている。

横浜市立東山田中学校内にはコミュニティハウスと呼ばれる、地域住民と学校をつなぐ施設が学校内に設置されている。このコミュニティハウスはオープンオフィスをコンセプトとした施設設計を行っており、館内で利用者が最大限自由に活動出来るように配慮している。開放的な空間の中、保護者を含む地域住民は気軽に立ち寄ることができ、地域活動や趣味を深める活動を楽しんでいる。また、コミュニティハウスに小学校 3 校と中学校を支援する学校支援地域本部事務局を置き、地域と学校とをつなぐ様々な活動を展開している。常に地域にひらかれた「場」、コミュニティハウスがあるということで、コミュニティハウス利用者だけでなく学校支援地域本部にも常に人が出入りし、事務局を担う竹原和泉館長ほか地域コーディネーターたちが活動している。

①住民や企業と連携した特色あるキャリア教育の展開

特に中学生のキャリア教育は、地域と学校との重要な連携活動のひとつとなっている。

例えば、中学3年生に対して採用面接の練習が行われているが、学校支援地域本部が面接の企画を行い、面接者となる企業勤務経験者などの地域住民のコーディネートを担当している。職場の身近な経験が学校教育の中でも生きるということで、地域住民の中で学校活動を支援する輪が広がることにつながった。

加えて、(株)リクルート社の協力を得て、中学生が職場体験した活動を「タウンワーク」という雑誌形式にとりまとめている。これは実際の情報誌さながらのものであり、リクルート社の指導のもと、雑誌の制作・編集の仕事を中学生自らが手掛けている。こうしたキャリア教育プログラムは、学校のみで実施していたのでは、教職員の負担が重くなったり、効果が十分に現れにくかったりするものであるが、学校支援地域本部が仲介することにより、地域や企業の協力が得やすくなり、中学生にとって貴重な経験を提供できている。

また、小・中学生と地域の大学生・大人などのスキルアップや学習意欲の向上を図る目的で、英検や漢検の実施を学校に代わって実施している。

コミュニティハウスを紹介したリーフレット

利用のご案内

■ 利用時間と利用日
大人利用
 どの日でも、午前、図書室利用コーナーが利用できます。
小中学生利用
 あらかじめ西日会館を予約して、貸付室(A・B)、体育館、ギャラリーが利用できます。

利用時間	利用対象	利用日
午前 図書室利用コーナー	午前7時～午後7時	月・火・水 木・金 土・日 (お休みの日)
貸付室(A・B)	午前7時～午後7時 午後7時～午後9時 午後9時～午後11時	月・火・水・木・金・土・日 月曜17～18時 日：お休む
ギャラリー	図書室利用 午後7時～午後11時	

■ 申し込み

利用場所	申し込み方法
貸付室(A・B)	毎月第1日曜日午前10時から貸付室の受付で電話予約可能。窓口から内線機で直接予約可。
体育館	東山田中学校のE・スポーツクラブに直接予約可です。お電話 http://www.tokai.ac.jp/~higashiyama/hsb/hsb.html E-hisab@CT11111.com
ギャラリー	直接予約可です。

- 予約は開始3日前までに行ってください。
- 予約は開始3日前まで、コミュニティハウスに電話予約可です。開始3日前までは予約可です。
- コミュニティハウスは予約可です。
- 予約はコミュニティハウスに直接予約可です。

東山田中学校コミュニティハウスの基本情報

1. 地域の世代を超えた交流の場として、暮らしが近い施設に活用します。
2. 大人も子どもも一緒に学ぶ場を提供し、生涯学習の場を創出。まちづくりに貢献します。
3. 地域と学校をつなぐ場として、新たな発想をもって活性化を図ります。

東山田中学校コミュニティハウス
 〒224-0023 横浜市都筑区東山田2-9-1
 TEL・FAX 045-591-7240
 E-mail: ch.higashiyamata@tokai.ac.jp
 平成24年(2012年)1月開

■横浜市都筑区下町グリーンライン「東山田駅」北口より徒歩1分
 ■東山田駅南口から「鶴屋」より
 徒歩1分。■東山田駅南口から「東山田中学校」下車徒歩2分

株式会社東山田学園 法人、つばき地区協議会
<http://www.tokai.ac.jp/>

横浜市
東山田中学校
コミュニティハウス

地域・学校連携施設

**HIGASHIYAMATA
 JUNIOR HIGH SCHOOL
 COMMUNITY HOUSE**

中学生が製作したタウンワーク



②学校と住民を巻き込んだ地域のシンボルマークづくり

コミュニティハウスの竹原館長によると、東山田中学校区は新興住宅地であり、もともと地域での住民間の結び付きや一体感、学校への愛着は必ずしも強いわけではなかった。そこで、竹原館長は、地域のシンボルマークを広く住民（子どもを含む）から公募し、地域に愛着が少しでも高まるような仕掛けをつくろうと考えた。平成19年に実施したこのコンテストでは75件応募があり、アーティストの日比野克彦さんを招いたワークショップを経て決定した。このシンボルマーク“やまたろう”は中学校区のシンボルとして地域の活動や学校活動に広く活用されている。

シンボルマーク “やまたろう”



◇ 栃木県宇都宮市 市立明保小学校

地域協議会(宇都宮市版コミュニティ・スクール)が主体となって、通学路上の花壇整備など、取組の様子や成果が住民の目にとまりやすい協働を進めている。

- 宇都宮市が設置する地域協議会(学校・地域・保護者から構成される会議)は、地域コーディネーターを設置し、学校と地域をつなぐ様々な取組を行っている。
- 地域住民の学校に対する関心は従来から高く、通学路にアジサイを植えフラワーロードにするなどの活動が行われてきた。地域協議会の呼びかけで剪定活動の地域ボランティアを募集したことを契機に、地域の学校への貢献はさらに高まっている。
- また、家族・地域などをテーマにした児童・生徒のフォトコンテストを開催し、その作品を地域の様々な行事・催し物へ貸し出して展覧会を開催するなど、多くの地域住民が学校活動と触れる接点をもてるように工夫している。

宇都宮市では、市内の全小・中学校で「魅力ある学校づくり地域協議会」(略：地域協議会)を設置している。地域協議会では、学校代表・PTA 代表・地域諸団体代表などによって構成され、学校の取組や学校支援について協議・実践を行っており、「宇都宮版コミュニティ・スクール」と呼ばれている。これは、法の定める学校運営協議会とは異なり、教職員の採用・任用に関して意見を述べる権限は持っておらず、学校評議員制度を発展的に解消しながら、地域の意見を学校運営に活かしたり、学校と地域との連携をコーディネートしたりする役割に重点を置いている。

また、それぞれの地域協議会には地域コーディネーターが置かれ、校長や教職員と日常的に密なコミュニケーションを図るとともに、学校活動への地域住民のボランティアの募集・調整などを担っている。これまでコーディネーターを仲介役として様々な地域と学校の取組が行われてきた。

①フラワーロードの整備

明保小学校のこれまでの取組の中で、フラワーロードの整備活動の地域ボランティアを募集したことは、地域・学校にとって特に重要な意味を持っていた。明保小学校の通学路にはアジサイが植えられており、「フラワーロード」という愛称で、教職員や保護者、一部の地域住民の間で親しまれていた。この剪定作業に、地域コーディネーターを通じて地域住民のボランティアをお願いしたところ、30名程度の応募(PTA から1~2名、地域住民から28~29名)が集まり、少しずつアジサイが広く地域住民にも知られるようになってきた。

地域コーディネーターの大島和枝さんによると、このボランティア活動を通じて、学校に対して関心や興味を持つようになった地域住民が多くなった、という。また、授業サポ

ートなど、環境整備活動以外のボランティア活動に積極的に関わるようになった人も現れ始めており、地域コーディネーターとしても学校支援の輪は広がりつつあるという手ごたえを感じている。

②明保児童フォトコンテスト

「明保児童フォトコンテスト」も、明保小学校のユニークな取組の一つである。明保小学校に通う児童自身が撮影した写真のフォトコンテストを開催し、審査員（協議会委員、PTA、教職員）によって選ばれた上位作品を、学校内だけではなく地域の様々な行事や催し物（地域の写真店での展示や地域自治会主催の文化祭など）へ貸し出している。応募テーマは毎年変わるが、これまでに「家族・ふるさと発見」などが設定され、作品の中にはフラワーロードに植えられているアジサイを題材にしたものも出品されていた。

地域コーディネーターの大島さんによると、この取組によって学校と地域が両者のつながりを強く意識できるようになった、とのことである。特に、地域の様々な行事に写真を貸し出して展示することにより、地域住民が学校活動に触れる機会を持てるようになったため、学校と地域の新しい接点をつくるきっかけができたとのことである。

フラワーロードの整備活動の様子



フォトコンテストの様子



◇ 東京都三鷹市 三鷹中央学園（市立第三小学校）

2小1中の「学園」におけるコミュニティ・スクール委員会が3学校の学校評価や学校支援地域本部に関するあらゆる取組を積極的に行っている。

- 三鷹市は小中一貫教育の学園構想によって学校を運営している。三鷹中央学園では、2つの小学校と1つの中学校を1つの学園とした学校運営がなされている。コミュニティ・スクール委員会も、3校の学校運営協議会を統合して運営している。
- 3校の学校運営協議会を統合した委員会のため、会議数は増えるものの、20名以上の様々なメンバーが参画しているため、学校と地域との連携は取りやすくなっている。
- 部会制を採用しており、支援部は学習ボランティア等の担当、地域部は地域のお祭り等の協力やゲストティーチャーの担当、評価部は学校関係者評価の担当と分けることにより、委員個々人がより専門性の高い取組に焦点を絞って取り組めるよう工夫している。

三鷹市では、小中一貫教育とコミュニティ・スクールが一体となった取組を行っており、市内を7つの学園に分けて、それぞれが1つのコミュニティ・スクール委員会を持ち、小・中学校が一貫して連携して学校運営にあたっている。小・中学校が統合することなく（各々存続した上で）相互に連携することで学園という単位を形成している。コミュニティ・スクール委員会は人事に関する意見を具申する権限も活用している。

三鷹市のコミュニティ・スクールのゴールは、「学校を核とした地域社会」を作ることであり、コミュニティ・スクールを運営することによって、最終的にはスクール・コミュニティの構築（学校を通じた地域社会づくり）を目指している。

○成果に関する考え方と地域連携との関連

三鷹市においてコミュニティ・スクールに取り組んだ成果としては、①「子どもが変わった」という点と②「学校への住民等の評価が上がった」という2つがあると考えられている。さらには、学校の動きがよくなったことによって③「いい地域になった」という点もあるとのことである。コミュニティ・スクールの運営が活性化することによって、三鷹市は地域全体がよくなっていくと考えている。

○都市部の特色を踏まえたコミュニティ・スクール委員会の活動

三鷹市のような都市部では、保護者や住民に「公立よりも私立」という意識、風潮が少なくない。また、「公立学校は荒れている」という誤解が残っている側面もある。こういった点について、学校のことをよく知ってもらうために、コミュニティ・スクール委員会の役割は大きい。

一方で、保護者が求めている願いのひとつは学力の向上であり、その保護者のニーズを実現していくためにも、小・中学校 9 年間を一貫して子育て・教育にあたる学園であるということを発信している。「〇〇中学校に行きたい」と保護者等に思ってもらえる学校づくりをしていくことが目標である。コミュニティ・スクール委員会は、小中一貫教育を支援する組織であると市では考えている。

三鷹中央学園では、地区のお祭りに中学生が手伝いに顔を出したり、小学校の運動会に中学生が手伝いに来たりするようになっている。地域の住民は、こうした具体的な活動を通じて、学校と地域との連携が取れているということを確認することができる。こういった少しずつの成果の積み重ねが、保護者や住民の信頼を得ていくためには重要と、学園では考えている。

③継続的に発展するコミュニティ・スクールをめざして

三鷹中央学園では、次世代の委員会メンバーの育成が必要だと考えている。三鷹市のルールで、会長は最大 4 年まで（1 期 1 年、4 回まで）、委員は最大 8 年（1 期 2 年、4 回まで）しか務めることができないこととなっている。その間に、次を探していくシステムになっており、そのためには、誰もが委員として活動できるようなシステムを組んでいくことが必要になる。三鷹市では、すべての学園の運営の手引きについて、他の学園を含むすべての委員会メンバーが見られるようにしており、学園間で学ぶ機会を設けている。

ただし、地道な取組が最も重要なことに変わりはない。三鷹中央学園では、多くの話し合いをもつ機会を設け、委員相互が理解し合うことが大切である。校長を含む教職員は人事異動があり、委員会メンバーも入れ替わるので、そうしたコミュニケーションを取ることとは大切だと考えている。